

## 記念レセプション

澤田清人 実行委員長 あいさつ

みなさまこんばんは。第50回人権交流京都市研究集会、記念のレセプションのご案内をさせていただきましたところ、何かとご予定がある中、このようにたくさんお集りいただきまして本当にありがとうございます。また、京都府連からは平井書記長、安田副委員長、そして、京都市からは吉田文化市民局長、在田教育長、清水教育企画官はじめ、多数、お越しいただきました。本当にうれしく思います。さて、私、京都市中学人権教育研究会の会長をさせていただいている澤田と申します。輪番制で実行委員長が回ってまいります。たまたま50回というこの節目の年に、私に順番が回ってきました。大役ですので、やはり緊張して11月からまいりました。「早くこのレセプションが終わって、この重圧から解き放たれたいな」というような気持ちも若干しております。

さて、今日の集会を見ておまして、午後からの分科会、私は最初第1分科会に行きました。私の歩んできた道。京研集会にはかつては、この分科会が毎回あったと思います。久しぶりに参加して心が熱くなりました。そして同時に、今の若い先生方にこの話を聞かせたいと思いました。

担当していたのが第3分科会なので、その後移りました。妻木教授が基調講演をされたが、その中身は、私が20年同和関係校に勤務した当時の地域の実態とあまり変わっていない。もう、20年も経っているのに一体どうしてなんだろう。これからどうしていったらいいんだろうと、ずっと考えながら話を聞いていました。もちろん、変わってきた部分もたくさんあります。でもまだまだ、私たちが取り組んでいかなければならない課題はたくさんあると思います。

今日は、かつて実行委員長を務めていただいた先生方にもたくさん来ていただきました。皆さま方が委員長を務めた頃と比べると、随分、集会も小さくなってしまいました。しかし、今も申した通り、この世の中から差別をなくしたい。子どもたちの未来に明かりを灯したい。幸福に生かしてやりたい、その思いは、変わらず持っているつもりです。50回の節目にあたり、もう一度ここにいる皆さま方と、すべての子どもたちの幸せのために、それぞれができることを一生懸命やっということを確認をして、冒頭のあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞ楽しんでください。ありがとうございました。

司会 木下松二実行委員会事務局長、主催者の紹介

平井齊己 府連書記長 挨拶

京都府連の挨拶というよりも、京研集会は私も長らくかかわった思い出がたくさんあります。私は、京都府に採用され、京都府庁部落問題研究会というところに入会し、地域で活動していたので京研集会には長らく参加し、そこから実行委員として関わり、また、事務局

長として手伝いもしました。もちろん、全体集会、基調提案、分科会と分担する中で、今日、お越しをいただいている実行委員長のみなさんに、お世話になった思い出がたくさんあります。全体集会を担当しているときには、当時、人権啓発展というのを、京研集会で初めて行いました。今では、啓発展は各地域や全市的な取り組みになっていますが、京都会館第2ホールをはじめとして、たくさんの掲示をした。これは、結構大変であって、募集し、掲示し、撤去する。何よりも当時、小同研、中同研の会長さんには、私と一緒に、各校、各団体回り、要請させていただいて広げていったという思い出もあります。もちろん、集会の成功、それに向けての思い出もあるが、当時一緒に取り組んだ先生方が、今日、たくさんお越しただいて、ほとんどの先生が校長先生になられたことを考えると、そういう時代だったのかと思う。特に、今日の基調提案にもありましたが、私の地元の楽只小学校が145年の歴史をもって、この3月で閉校してしまいます。益井茂平さんの私塾を入れると150年を優に超える小学校が、基調提案でも評価いただいて、崇仁小学校と楽只小学校が、ある意味では同和教育のリーダーという評価をいただいたことは、むしろ恐縮するわけですが、そういう意味では、中学校の教育もそうだが、私の時は中同研、小同研、そして各団体のみなさんということで取り組んできて、この50年を築いていただいているということは、本当に感謝申し上げます。澤田実行委員長は、コンパクトになったということで、ある意味恐縮されたご挨拶をされたが、これは、私たちも責任があるかと思いますが、それよりも、今の現場の中では同和教育という文言自体は、形を変え、人権教育、人権行政を推進していくという取り組みにはなりますが、柱である、子どもたちを大切に、地域の親の思い、地域の思いをしっかりと教育に生かし、育てていく、これは何も変わっていないと思います。感謝申し上げます。楽只小学校では、私は今PTA会長ということで、この数年間特に閉校に向けた取り組みでは、多くの先輩方の意見や努力をいただいて迎えられたということで、今日は、せっかくでするので最後まで寄せていただいて、ゆっくり交流させていただきたいと思っています。残念だったのは、午後から地方税議会というのがありまして分科会に参加できませんでした。この後、みなさんと交流させていただきたいと思っています。

吉田良比呂 京都市文化市民局長 挨拶

本日は、第50回人権交流京都市研究集会、無事、成功裏に終わられたということで、大変お喜び申し上げます。50回ということですが、京都市、私の方で今担当している人権の啓発事業でもヒューマンステージ・イン京都が25回、それから、今、先生方にお世話になっております四文字熟語人権漫画、これが13年ということで、イベントの事業で10年を超えてやっていくということは、非常に長くやっている方ではあるが、この研究集会、50回ということはその倍以上やっているということ。それも、イベントではなく、研究ということで集会がこの回数続けられるということでは、大変敬意を表するところです。私も、以前、人権文化推進課長をやっていたとき、(分科会に)パネリストとして一度参加しました。実

態調査等、今の現状について報告しました。その時非常に緊張をして、やはり何日か前から、原稿をつくるが、これをどう表現していくか、意見が出た時にどう返していくかということで、勉強させていただいた。そういったことが、今の立場となって、身につけていると思っています。今、人権3法が成立しましたが、まだまだ人権の課題があります。法律が成立したということ。ヘイトスピーチに関しては、今日も紹介されたが、京都市ガイドラインを策定し、また、LGBTの関係については、今、職員の手引きということで作成した。同和問題、人権問題については何をしていくのか。いろいろ、水平社創立記念碑の説明版、また岡崎コンシェルジェに載せ、多くの方にこの存在を知ってもらう取り組みを、今年度をおこなったが、この研究集会の50年という記をもって、我々も来年度、人権文化推進計画の見直しの作業に取り掛かっている。これまで、皆様方と意見を交わして、人権の息づくまちづくりということを進めてきたが、その基本に立ち返ってしっかりと計画に思いを込めて、進めていきたい。私は、文化市民局ということで、文化を担当しているので、若干時間をいただき、宣伝をしたい。昨日、文化芸術の基盤事業づくりというのをやっていて、東九条にある特別養護老人ホームに芸術家が入り、事業をやった中間報告があり、主催者として話を聞いてきました。思った以上に、大変いい事業だと思いました。老人ホームの中にアーティストが入って、庭造りを一緒にやる。そこで、保育園の子どもさんたちがチューリップを植えてくれる。アーティストは、福祉の勉強はされてないが、行って、高齢者の方と話をし、手を見て、その人の歩んだ人生を感じて、それを作品にして、今、山王小学校で作品の展示をしています。またみなさん、お時間があれば見に行ってください。施設の職員も、アーティストも気づくことが多かった。事業を継続していくのには様々な課題はあると思うが、気づきは重要であります。この京研集会も共通するところがあります。やはり、行って、聞いて、感じるということが大事だと思います。また、来週、月曜日から、私の部下の方にも職員にもしっかり伝えていきたい。私の今の関わりで言うと、人権啓発補助金ということの対象にもなっている。本当にこの、事業の趣旨にそった今、研究会になっていると思う。これからも多くの方が築いていていただけるように、工夫もしていきながら、さらにより良い事業にしていきたいと思っていますので、よろしく願います。長くなりましたが、私の期待ということも含めて述べさせていただきました。本日はおめでとうございます。

在田正秀 京都市教育長 挨拶

50 回記念レセプション、本当に懐かしい、私にとってはお世話になった、実行委員長を務めていただいた先生方はじめ多くのかかわりを持った皆様のご参集の下、このように開催されますこと、お祝い申し上げます。実行委員長の澤田清人校長先生をはじめ、開催にお世話いただいた先生方にもお礼申し上げます。実行委員に集われた皆様方が、あらゆる差別問題の解消に向け、熱心に、真摯に取り組むをこの50年続けていただいた、その成果が今あると思います。ただ先ほど来、課題もあると、課題があるが、前進もあると思っております。先人の皆様方のご尽力にあらためて感謝を申し上げます。本市教育委員会におきましては、

1964年昭和39年同和教育方針、一人一人の子どもたちの学力向上、これを最高目標として学校現場の実践を進めていただいた。また、人権問題の多様化の中で1992年、平成4年に外国人教育方針というのを策定し、人権教育、外国人教育、様々な形の教育を進めています。人権の基礎には教育がなくてはならない、そういう固い信念のもとにこれまで取り組みを進めてきました。憲法には個人の尊厳、そして幸福追求権というのが規定されています。個人の尊厳も幸福の追求も、教育がなければ守られない、確保されないという、人権の基礎に教育がなければならぬという信念のもとに同和教育方針、学力向上、一人一人の子どもたちを徹底的に大切にするという本市教育の伝統が脈々と今日まで受け継がれてきていると思っています。

私の思い出話をしますが、外国人教育方針、1992年に策定されましたが、その1年前の4月に当時教育長だった藪本薫先生に私は学校指導課で外国人教育の担当係長をしていまして、呼び出されまして、当時の上司が皆様方にお世話になった荒木英昭さん、この2人に呼び出され、来年の3月までに外国人教育方針、当時は、試案ということで11年前に試案をつくり、学校現場でそれに基づいて実践していただいていたわけですが、いつまでも試みではいかんということで、1年をかけて正式の方針にしてほしいと厳命を受け、大変なことだと、1年でできるかと思いましたが、学校現場の先生方に入らせていただいて、検討委員会を組織して取り組みを進めて、何とか3月には方針として策定できたわけですが、やはり学校現場の先生方の意識を変えるそれが、方針の方向というのはあまり変わってないわけですが、方針として正式により一層進めていくと意識を変えていくということです。後からお伺いしたんですが、藪本教育長はその年度で2年早く退任をされました。退任することを4月に決めて、自分の最後の仕事として外国人教育方針を策定するという強い思いでつくっていただいた。藪本教育長は今の指導部の主幹、今でいうと担当部長という立場で初めて同和教育に関わったとおっしゃってますし、自分の教育の実践の原点には同和教育、人権教育があると常々おっしゃってました。その方針には、先ほど荒木さんのお名前を出しましたが、谷口健司さん、当時総務課長で、直接担当ではなかったが、その11年前の試案に関わったということで、いろんな意見をいただいたことも、思い出します。

今は、きわめて厳しい社会状況の下で、格差や貧困が際立ってきているという大変心配な状況があります。勤労世帯の可処分所得がこの20年で20%以上下がっているという、きびしい経済状況で、弱者に対して暖かい目を持ってないじゃないか、という心配な状況があります。ある調査で、自分の力で生活できない人を、政府、国が助けるべきではないという、残念な考えを持っている国民が、ヨーロッパでは、7~8%くらいしかいないのですが、アメリカで言うと28%、世界で一番高いのが日本の38%、助けなくてもいいと、そういうことを考えているような国民になっている。これは、すべての傾向を示しているかはわかりませんが、そういった調査もある。大人の意識は子どもの意識に確実に影響する。今一度人権教育を基盤とした学校教育を推進していかなければならないと思っています。今、人権教育を進めるにあたって、学校教育における人権教育の指針の改定を、現場の意見もい

ただきながら進めています。子どもたちの未来が、生まれ育った環境によって左右されない社会、そのために教育が今後とも大きな役割を果たさなければならないと思っています。そのために、今日、ここにお集りの皆さんのご指導、ご支援を引き続き申し上げまして、お祝いのご挨拶にさせていただきます。本日はおめでとうございます。

## 来賓紹介

### 乾杯発声 挨拶

松井珍男子 前副市長 挨拶

本日はまことにおめでとうございます。今日は、なつかしい先生方にもお会いできましたし、私にとっても本当にうれしい日でした。最近、人権に関わる集会は非常に人が集まらなくて困っているという話を聞いていたのですが、今日は、あの大谷大学の講堂はかなり大勢の人に集まっていただいて、大盛況だったと感じました。澤田実行委員長さんの力強いご挨拶もあったし、基調提案をしてくれました先生と、私は千本支部なんです、小林支部長が堂々と基調提案をしてくれました。私は、第1分科会に参加しましたが、そのコーディネーター役の村上さん、この方も大変しっかりされていまして、いろいろ問いかけを受けたことに答えるのが難しい質問も受けまして、困ったこともあるくらいでしたが、本当にりっぱな集会になったと思います。50年前のことを思い起こすのですが、当時は同対審答申、同和对策特別措置法、これの即時具体化が大きな課題でした。全国研究集会がその3年前に開かれているんですが、3年後に地域での決起集会をしようということで、京都市研究集会が発足しました。この時は、多くの行政マンの方、小同研、中同研の先生方、私はその時は京都市職員部落問題研究会の代表幹事を仰せつかっておりまして、今、在田さんからお話が合った、荒木さんとか、後藤さん、そういう方々の協力を受けて、担当したことを昨日のこのように思い出します。今日のこういう集いがあるということ、宮崎議長からお聞きして、第1回のことを知っているのはあなただから、出てきてと言われました。やはり、継続は力なりということであらためて、今日、感じた次第です。これから先も、この研究集会が続き、3年後には水平社100周年ということですが、その先も、まだまだ差別はなくなっていくんじゃないかな、今日も、分科会でお話ししたんですが、部落差別解消法が3年前にできましたが、立法をする場合には立法事実が必要だ。政府、国会が初めて、部落差別が存在するということを認めたのが、この法律です。これから先もまだまだ困難なことは続くんだろうと思いますが、発展させるというか、継続してがんばっていただきたいということをお願いして、私のあいさつの言葉に変えます。それでは、乾杯をいたしましょう。

それでは、この集会を継続させていただくこと、そして、部落問題解決、人権問題の解決が1日も早からんこと、そして、本日ご出席の皆様方のご健勝を祈念して乾杯をします。

乾杯！

## 【歓談】

門川市長

みなさんこんばんは。京研集会 50 周年、本当に、尊い、偉大な歩みに心から敬意を表したいと思っています。ご無礼ばかりいたしております。正直言いまして、私が教育委員会に奉職したのが、昭和 44 年でした。そして という当時、ものすごい忙しい時でした。庶務係長が後藤しんじさんでした。3 日ほど前に呼ばれまして、50 年前です。18 歳。朝 8 時に新洞小学校に行け。あ、いや前日に行けと言われた。そして、貸本屋から届いてきた火鉢、思い出深いんです。そして、前日の準備。今みたいにお茶が売っている時代ではない。まず、お茶を前日に準備して、朝からお茶を沸かして、それから、夜終わって、ふらふらになった。そんな私にとって、ちょうど、同対審答申、特措法、その時代に教育委員会でしごいてもらいました。そして翌年大先輩が働きながら夜、立命館に行ったという話を聞いて、立命館の夜間に通わせていただきました。あの時のいろいろな経験があるから、今の私があるなど、本音で感じています。京研集会が終わって、反省会がある、呼んでもらいました。しかし、君たちは飲んでではない。まだ 18 歳だ。上級で入った人間は別のテーブルで飲んでる。我々は、当時は 18 歳で酒も飲み、たばこも吸っていた世代ですけど。そういう思い出があります。そして、あらゆる差別を許さない。同和問題の解決、みなさんが、徹底的にがんばってる。私も正直言って高校時代からとんがってましたんで、教育委員会に堀川高校でデモをかけた男ですけど、何が間違っ、教育委員会ってちゃんと思想調査してないんだなと思ったんですけど、 係というがんじがらめのところに勤めることになりまして、そこで、あらためて、子どものために命懸けでがんばってる同和関係校の先生、また教育委員会の指導主事の先生、本当に、地域が親が変わらなければ子どもは変わりようがない。しかし、専門職である教師が、子どもを変えなければ親や地域は変わらない。信頼を得られない、ということで懸命に頑張った。目から鱗でした。そんな先生方に、特訓を受けた若い先生。いや、今もそうです。例えば崇仁地域に地域の賛同の下に、関係者の総意の下に芸大が全面的に移転する。そうするとその南の東九条地域が現代アート、僕、3 年前の 3 期目の選挙のときに、10 分でいいから選挙の告示日の前日、来いということで東九条に寄せてもらった。そうすると、あそこを現代アート、多文化共生、多世代交流の拠点にするという趣旨の公約、マニフェストを書いたのを全面的に協力する、一緒にやろうと、東九条の地域の皆さんに言ってもらったのは、涙が出そうなほどうれしかったです。まだまだ、京都というのは 1000 年を超える悠久の歴史、その、歴史というのは、ある意味時代、時代の制約の中の差別と偏見様々な課題があった歴史です。しかし、同時に、それが故に、新たな飛躍がある。一人一人の人間の尊厳を尊重し合う。そんなことを感じます。東京の教育再生会議の委員をさせていただいた。そして、私、東京である小学校に行ったんです。道徳の授業でした。びっくりしたんです。この人の課題、反省すべきところを見つけて、指摘してあげましょうという、こんな授業なんです。こんなのは、京都で、関西でありえない。私、終わってから言いました。

家に帰って、家族で、お父ちゃんの課題を指摘しあいましょうと言ったら、私、家に帰らない。お父ちゃんも悪いところあるけど、そこはぐっと我慢して、いいとこみんな認め合おうよ。同和教育、人権教育で京都が、関西が培ってきたことと東京都は全く違う、教育や文化やなと実感します。

今、ネット社会等で様々な課題がありますが、京都が本当の意味で人権文化をしっかりと構築していくという取り組みをより深めなければと思っています。そんな時にうれしいことがありました。SDGs一人も取り残さない。すべての人に質の高い教育を、全ての人に、健康と福祉を、これを国連が高らかに宣言して、世界中で実行していこうと。これは、みなさんがこの50年間懸命に、同和問題の解決、全ての人を、人権を保障しよりよい世の中をつくろうと取り組んできた。その延長であると実感します。課題は山積していますが、京都から、ここから、一人一人が豊かで、幸せで、生きがいを感じられる世の中をつくっていきたいと思っています。ありがとうございます。

松井：市長に、もう一言しゃべってほしいのは、水平社60周年の記念に、岡崎公会堂の前に記念碑を作ってもらいました。今年1月の初めに、あの記念碑がどうなっているかなと思って、見に行ったんです。そうしたら、その横に、この記念碑がどうしてできたかということが書かれた、立派なプレートができていた。1月5日かな、市長に会って、あんな立派なの作ってくれたんやな、と言ったら、市長が「松井さん、それ見てくれたんか。あの文章はわしが作ったんやで。文章はどうやった?」「いや、りっぱな文章やったで」ちょっと、そこをしゃべってくれますか?

門川：ありがとうございます。人類の歴史は人権確立の歴史であった。私は本気でそう思っています。アメリカの歴史が奴隷を、人身売買を、短期で見たら厳しいこともあるけど、長いスパンで見たら、人類の歴史は、人権確立の歴史であった、そうであらねばならない。このように思います。そんな意味で、あの、水平社宣言ができた。去年は国連人権宣言70周年であった。(京都市は)世界文化自由都市宣言40周年であった。そういうことも踏まえて、あまり目立たないけども、正直言って、もっと目立つように前に出せ、という気もあるんですけど、なかなかそれも難しいから、それをしっかりとしたもの、その趣旨を今に生かして、伝えていかなければと思っています。3年後にあの偉大な日本の人権宣言と言われる水平社宣言。人の世に熱あれ、人間に光あれ、から100年を迎えます。その時にはもう一つなんか、きちっとした、あそこに、みなさんがモニュメントをつくっていただける。ということで、京都の一番誇りである、人権文化、これまさにSDGsであります。そういったことを踏まえて、より普遍性のある、水平社宣言のある、水平社宣言というのは普遍性のあるものです。そうしたことも含めて新たな、スタートにしていきたいな、これが、京都の誇りだなと思っています。ありがとうございます。

木下：門川市長の大変力強いあいさつをいただいた後、申し訳ありませんが、本日閉会の時間となりました。最後に宮崎議長よりみなさんにご挨拶をいただき、終えていきたい。

宮崎

市協の議長している宮崎です。私のあいさつの前に、実は楽只小学校が145年の歴史に幕を閉じます。井川校長先生も、小同研の会長でご自身も退職されるということで、本当に小同研は大きな役割を果たしてくれました、その先輩として、井川先生から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

井川

宮崎議長ありがとうございます。今回は私は、副実行委員長ということで、昨年実行委員長させてもらったもので、澤田先生におまかせしていたのですが、開会前に議長から少し話とと言われていました。

楽只小学校の閉校と、私の退職ということでこの場に立たせていただいているが、京研が50年ということで、私がこの集会に関わり始めたのは第26回の時からでした。ですから、半分が済んだ後の、後半の半分のスタートに関わり始めたのだと思います。小学校の同和主任になった年なのですが、その時に第26回の基調提案をちょっと、当時八坂中学の同和主任をしていた澤田先生がされました。そして次の27回の際に私が、基調提案させていただき、また29回の際には京都市集会の教育の分科会で提案をさせてもらったのですが、それが2月です。その前の市同教でも提案、また12月の全同教でも提案、そして、2月の京研集会で提案したというそんな年もありました。そんなことで、楽只小学校で5年間同和主任したときに、この京都市集会では基調提案や分科会、コーディネーターなど、本当にいろんな役割をする中で、本日お集りの歴代実行委員長の校長先生にもいろんなことを教えていただいて微力でしたが、部落問題の解決に向けて、学校現場の一員として取り組んで来れたかなと、今振り返っております。楽只小学校、蓮台野小学校として学校としてスタートしたのが、1873年、明治6年。その5年前、慶応年間に益井茂平初代校長のお父さんの雁右衛門さんが塾を始めた時代から数えると150年を超えるという歴史があります。明治学制以降145年の歴史を閉じるわけですが、8年前に崇仁小学校が閉校し、そして、今回、楽只小学校が統合するというので、先ほど評価いただきましたが全体集会の基調提案で楽只小学校の閉校に触れさせてもらったんですが、僭越ですが、京都市の同和教育を先頭に立って、崇仁小学校と共に、ずっとやってきた楽只小学校が閉じるということは、ある意味形としてはなくなり、さみしいというところもありますが、そこで進めてきた教育理念や実践、成果は必ずこれからの時代に向けて、さしずめ、4月からは新紫野小学校としてスタートする、新たな学校でその人権教育を位置付け、実践し、人権文化の担い手になる子どもたちを育てていくということに向けて、あと、残り、数日ですががんばっていききたいと思います。閉校に向け



て今、地元の方にお世話になって、記念の様々な事業に取り組んでいます。松井珍男子様にも実行委員会の顧問になっていただき、平井様にもPTAの会長としてさまざまに取り組んでいただいています。3月22日に京都市教育委員会の主催で閉校式を行い、3月23日の土曜日には地元主催の閉校記念イベントを開催する予定です。また、そういった場にもおこしいただければありがたいかと思えます。本日はこういう場を与えていただきありがとうございます。

宮崎：今日は市長、大変お忙しい中わざわざ来ていただきありがとうございます。松井先輩、僕の大先輩で、僕は37年間市役所生活をしてきましたが、松井さんがおられなかったらとっくに首になっていただろうと思えます。本当に育ての親として、尊敬して、この間お願いしました。今回も、朝から集会に参加していただき、午後の分科会ということで、やはり今の若い50代のメンバーが、生まれた時から同和教育があった、改良住宅で生まれた、そういう若いメンバーが解放運動しているということで、かつての話をしていただきたいということで西三条の山本栄子さん、東三条の小笹道子さん、そして松井珍男子さんに、昔の生い立ちから、差別の体験、そして若者に訴えたいということで、第1分科会、私の歩んだ道ということで勉強させていただきました。私も、これを一つの契機にさらに、解放同盟市協としてもがんばっていきたいと思えます。ただ、まだまだ私たち力不足でありますので、引き続きみなさんの協力をお願いしたい。それから、今日、歴代の実行委員長、懐かしい中で、昔同和教育をバンバンやっていた先生方が、こうやって来ていただくというのうれしい限りです。引き継がれている教育をしっかり、私たちも自分たちのものにしていきたい。特に私は教育委員会の懐かしい言葉は、「京都の教育は同和教育なり」ということで、具体的に言うと、底辺の子どもたちを支えることは、同和地区の子どもたちをはじめ、いわゆる底辺でしんどい子どもたちを支えることが同和教育なんだと。これが、先ほど教育長が言われた、悪いところを見つけるんじゃなく、いいところを引っ張っていく、こういう教育を今後も進めていただきたいし、私たちの運動もそれに向かってがんばっていきたいと思えます。最後になりますが、また来年51回へつないでいく、それを発展させていく、その原動力として、再度みなさんのご協力をお願いしまして、本日の閉会のご挨拶に変えていきたいと思えます。本日は、大変ありがとうございました。